



古谷 裕子

FURUYA Hiroko

北港運輸
社長

「安全」を核に、 お客様・地域・社会への貢献を



当社は1924年、住友電線製造所(現・住友電気工業)の専属輸送会社として創業以来、大型機械などを中心に多種多様な荷物を全国に輸送しています。

当社では創業時から「安全」を核に据え、安全対策に大きなコストと労力をかけています。安全性を高めることで品質が向上し、それが安心となり、お客様からの信頼へつながると考えているからです。しかし、安全への取り組みに完璧はありません。人間はすぐに忘れててしまうものです。そのため従業員に、常に何らかの課題を与えて、同じことを繰り返し伝えたりするなど、さまざまな工夫を凝らし、安全第一の職場づくりに励んでいます。

その一つが、「丁寧な仕事をしてください」と言い続けていることです。私たちの仕事は、お客様が作られた大事な製品をその先のお客さまにお届けすることです。国のサプライチェーンにとって重要な荷物でもあり、業務自体が世の中のためになるものもあります。事故を起こして荷物を傷つけることは当然あってはならないことですが、そもそも事故を起こすこと自体、公共の皆さまにご迷惑をおかけすることです。そこをしっかりと自覚し、日ごろから丁寧な仕事に取り組むことが安全につながるという思いからです。

また、仕事の基本である「5S(整理、整頓、清掃、清潔、躰)^{しつけ}」に「爽やか」を加えた「6S」の実行にも取り組んでいます。ドライバーや作業員はお客様と接する当社の顔です。ですから、丁寧で爽やかな挨拶を心がけるよう指導しています。そして、6Sの取り組みを浸透させるため、各部署に整理整頓などの成果を、ビフォー・アフターの写真にして提出させ、それに対して表彰する制度を設けています。また、それを継続している場合には、「キープ賞」を設けて称え、

身の回りをきれいにして丁寧に仕事をすることの日常化をめざしています。

さらに、安全意識を徹底するために、私はできる限り全国の事業所に出向くようにしています。現場を見て、従業員に顔をあわせて伝えることがとても重要だと考えています。

こうした安全・安心の取り組みを推進する上で、熟練した高齢者の力が欠かせません。当社はマイスター制度や65歳までの再雇用制度もありますが、元気な方にはより長く働いてもらっています。たとえば、安全指導員になっていただき、各事業所の中で安全指導の徹底や運搬技術の伝承にも取り組んでもらっています。また、現場のオペレーションを円滑に行いう事務職の女性も大切な戦力です。当社では、家庭の事情や働き方などの要望を聞き、それにあった仕事、職責を任せるようにしています。その結果、うれしいことに、当社では女性が長く働き続けてくれています。

地域や社会の平和は、「安全」という土台の上に成り立っています。この平和を守るためにには、私たちの地域から安全・安心を維持していくなければならないと思っています。そのために、当社ができるることは小さなことかも知れませんが、モラルを守り、当たり前のことがきちんとできる企業風土を育てることです。それによって、少しづつ周囲に良い影響を与えられればと願っています。いま、その一環として登下校時の子どもの安全を確保する『子ども見守り隊』や地域の清掃といった活動を行っています。大阪市では企業が見守り隊に入るのは初の事例だったそうで、その後、他の企業の方も見守り隊に加わるなどの良い連鎖が生まれています。

これからも「安全」を追求し、お客様・地域・社会に貢献できる活動を進めていきたいと考えています。 (談)